

第2回子ども・子育て会議計画素案に係る委員意見要旨及び計画案の修正箇所

(重複意見はまとめ・確認等の質疑は除く)

主な意見要旨	修正箇所等
<p>1 ライフステージに応じた切れ目のない支援</p> <p>・「親と子の健康の確保・増進」にある「子育ての不安を解消し、安心して子育てができるよう」というのはもちろん理想だが、解消するのは難しいことである。解消できなくても大丈夫だと伝わるような表現になると良い。</p>	<p>P. 2</p> <p>柱1 「身近な相談窓口からつながる切れ目のない支援」 「育児不安の解消」→「育児不安の<u>軽減</u>」</p> <p>柱1 「親と子の健康の確保・増進」 「子育ての不安を解消し、」→「子育ての不安を<u>軽減</u>し、」</p>
<p>・区役所を中心とした図について、学校の上に SNS 相談があったり、学校が区役所から一番遠いところに配置されていたり、項目の配置が気になる。「基本的な視点」にある、市民・企業・大学・NPO・地域団体が図にない。</p> <p>・神戸市では、児童福祉法上のこども家庭センターとは別に、都道府県・政令市に設置されるこども家庭センター（児童相談所）がある。名称を変えるなど、整理をしないといけないのではないか。</p> <p>・区役所を中心に身近な相談窓口を示すことが1番の目的であれば、ライフステージごとに行くべき窓口がどこかを分かる図にすると良いのではないか。区役所以外にも身近な相談窓口があるということが図で示せたら良い。</p> <p>・子育てチーフアドバイザーが配置されている児童館は地域子育て相談機関で、その中心となるのが区役所であることが分かる図にすれば良いのではないか。</p>	<p>P. 2</p> <p>図に「こども・子育て世帯を取り巻く身近な相談窓口のイメージ図」と見出しを付け、市民向けの窓口として区役所を中心にさまざまな機関が連携していることが視覚的に分かるよう工夫した。</p>

主な意見要旨	修正箇所等
<p>・「関係機関との連携」という言葉がよく出てくるが、どのようなところまでが関係機関と考えているのか。民間の子育て支援団体との連携がプランのどこに入ってくるのか分かりづらい。</p>	<p>P. 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱1 「親と子の健康の確保・増進」 「各種関係機関・地域、医療機関との連携を強化します」 ↓ 「地域の医療機関等との連携を強化します」 ・柱2 「ひとり親家庭等への支援の充実」 「関係機関との連携強化を進めます」 ↓ 「ひとり親家庭センターを中心に区役所やハローワークなどの関係機関との連携強化を進めます」 <p>P. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱4 「地域とつながる多様なあそび場の充実」 「日常生活の中の多様なあそび場を通じて、必要な支援へとつないでいきます。」 ↓ 「日常生活の中の多様なあそび場を通じて、<u>地域の子育て支援活動</u>や必要な支援へとつないでいきます。」
<p>2 こども・子育て世帯の状況に応じた支援</p>	
<p>・医療的ケア児を抱える親の負担はかなり大きい。医療的ケア児の世話により、他の（健常の）きょうだいも遊びに行きづらくなるなど、家族も負担を抱えている。そういったことへの配慮も盛り込まれていると思うが、表立ってもう少しそのような言葉が入ると良い。</p> <p>・「医療的ケア児及びその家族」という表現に変えてはどうか。</p>	<p>P. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 「配慮を要するこどもや医療的ケア児等への支援」 ↓ 「配慮を要するこどもや医療的ケア児等<u>及びその家族</u>への支援」

主な意見要旨	修正箇所等
<p>3 こどもに任せてみる、こどもを主体としたまちづくり</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 「こどもに任せてみる」というのが大人目線であるということであれば、例えば、こどもたちが主人公のイメージとして、「こどもの『やってみたい』を支える」など、こどもの言葉が入ってそれを支えるという形が良いのではないか。 「こどもの自己実現」というのは難しい部分もある。例えばシンプルに「こども・若者が主体のまちづくり」など、せつくなので若者も捉えていければ良いのではないか。 	<p>P. 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 柱3 「こどもに任せてみる、こどもを主体にしたまちづくり」 ↓ 「こどもの<u>“やってみたい”</u>を支える、こどもを主体にしたまちづくり」 「子ども・子育て支援法」では、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある者を子どもとし、こども基本法（こども大綱）では、おおむね18歳以降からおおむね30歳未満の青年期の全体が入ることを明確にする場合以外は「こども」を用いていることに準じた表現に統一。
<ul style="list-style-type: none"> 主な取り組みに書かれている、「プレコンセプションケア」「思春期デリバリー授業」「エコファミリー制度」など、よく意味が分からない。中学生が見て分かる文章となるよう工夫してほしい。 	<p>P. 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な取り組みの概要説明を巻末に付記 「プレコンセプションケア」 ↓ 「妊娠に関する正しい知識の普及・啓発（プレコンセプションケア）」 「思春期デリバリー授業」 ↓ 「思春期の性教育事業」
<ul style="list-style-type: none"> 主な取り組みについて、日本版 DBS は「こども性暴力防止法」が 2024 年 6 月に成立したばかりで、2026 年の施行が予定されている。実際に実施していることと今後取り組んでいくことを切り離して書かないと誤解を生むのではないか。 	<p>P. 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 「日本版 DBS への対応」 ↓ 「性被害防止の取り組み」（巻末に説明を付記）
<ul style="list-style-type: none"> 『「やってみたい・やりたい」を支える』は重要だと思う一方で、積極的な後押しをするイメージが強い。「自分らしさを支える」など、そういったニュアンスが含まれるとありがたい。 	<p>P. 5</p> <p>柱3の副題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こどもが自分らしく、幸せに向かってのびのびとチャレンジでき」 ↓ 「こどもが自分らしく、<u>思い描く</u>幸せに向かって、<u>一人ひとりのペースで</u>チャレンジでき」

主な意見要旨	修正箇所等
<ul style="list-style-type: none"> 追加骨子案について、こどもが主体となるような支援になるのか違和感がある。大人の責任で、命の大切さをこどもたちに届けるというのであれば、様々な状況に置かれたこどもたちに応じた命の大切さを啓発していくという視点で、2の柱の「こども・子育て世帯の状況に応じた支援」に入れてはどうか。 命の大切さという基本的なことを示すのであれば、3の柱の前提ということで1番最初に持ってくるという考え方もあるのではないか。 	<p>P. 5 追加骨子案「こどもの意見を尊重し、その意見を表明しやすい社会環境づくり」を柱3の1番最初に配置。</p>
<ul style="list-style-type: none"> こどもの居場所づくりは局を超えた連携が必須。「KOBE◆KATSU」も居場所づくりに入ると思う。 	<p>P. 5 主な取り組み 「部活動地域移行を踏まえた居場所づくり」を追記</p>
<ul style="list-style-type: none"> 権利条約の意見表明権は0歳からであり、赤ちゃんも泣いて主張したり、就学前のこどもであれば心情的なことで訴えていることもあったりする。言葉にならない声を聴くことも意識して盛り込んでもらえたらと思う。 	<p>P. 5 「こどもを取り巻くおとなに対して、こどもに任せてみるなど、こどもの視点に立ってこどもの“やってみたい”を支えていくことの大切さを共有していきます。」 ↓ 「こどもを取り巻くおとなに対して、<u>乳幼児から高校生世代まで、多様な養育環境や発達段階に応じたこどもの意見を聴くことや、思い・願いを受け止めることが大事であり、こどもの視点に立って“やってみたい”を支えていくことの大切さを共有していきます。</u>」</p>
<ul style="list-style-type: none"> 市長・教育長と小・中学生や高校生との対話フォーラムが実施されたが、そういった機会があればこどもは楽しいし、意見を聞いてくれるということが分かると思う。この取り組みが継続できるのであれば、主な取り組みのところに掲載してはどうか。 	<p>P. 5 主な取り組み 「こどもの意見聴取」 ↓ 「行政との対話等こどもの意見を聴く取り組み」</p>
<h4>4 神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくり</h4>	
<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい環境も大事だが、子育てに専念している人がいても良いというのが伝われば良いのではないか。 	<p>P. 6 柱4の「子育てしやすく働きやすい職場環境の啓発」の文頭に「子育てしながら働く人に向けては、」を追記。 (上記文言により、「子育てに専念している方もいらっしゃるが、働くという選択をされている方向けには、」と伝わるようにした。)</p>